

2026年度 大学院入試（2月期）（国語国文学専攻）

修士課程 「専門科目」

（2026年2月18日実施）

選考・判定方法	《専門科目（国語学・国文学）》《外国語（英語／日本語）》《口述試験》 専門科目（100点）、外国語（英語：4段階評価／日本語：100点）および口述試験（4段階評価）により評価する。
判定基準	専門科目：60点以上、外国語（英語）：C以上／（日本語）：60点以上、口述試験：C以上のいずれも満たすこと。

《専門科目》（100点満点）

【一】（30点）

出題意図

国語学もしくは国文学について研究する場合に必要な、特定のテーマに沿って論じる力と基礎的知識を問うた。

正答例

《国語学専攻の受験者》

ローマ字表記の便利な点については、漢字・仮名表記に比べ、清濁・特殊な読みなどを細かく表記できることなどを例にあげて、使用者・受信者の日本語能力に関わりなく、活用できる点について論じる。ローマ字表記の課題となる点については、運用に関する歴史的な経緯、同音異義語の存在、長音表記の難しさなどの例をあげて、社会生活、学校教育において、訓令式、ヘボン式など、複数の表記が混在している現状を論じる。

《国文学専攻の受験者》

古典文学の領域であれば、『日本霊異記』『蜻蛉日記』『源氏物語』『今昔物語集』『宇治拾遺物語』などの文学作品や、貴族の日記にも登場する夢の逸話と同時代人の反応、それらの記事が文学作品や記録に登場することの意味について考察する。

近現代文学の領域であれば、夏目漱石『夢十夜』、宮沢賢治『銀河鉄道の夜』、夢野久作『ドグラ・マグラ』、瀧口修造『妖精の距離』等を題材に、夢が作中で果たす機能や、科学思想・精神医学からの影響、シュルレアリスム等の文芸思潮との関連を考察する。

【二】（20点）

出題意図

国語国文学研究を志す上で、この程度は身につけておいてほしいという語彙力を判定するために漢字の読みを問うた。また国語国文学研究において必要な論理的文章の読解力、表現力を判定するため、記述による内容説明問題を課した。

正答および正答例

問1 (1)らんじゅく (2)きょうあい (3)きよほうへん (4)のんき

問2 小林秀雄が私小説の要件とする「社会化した『私』」は、各時代に応じた形で現れ、その時代ごとの作家によって描かれていくから。

問3 三人称小説は主人公を外から描写するのが基本であるが、語り手が時として主人公の内面に入り込むだけでなく、主人公として見、感じ、書くために、主人公が感じていることを語り手が代弁しているかのように読者には感じられてしまうこと。それゆえ作中に描かれる景物が、主人公がそのように見たものなのか、あるいは語り手の記す客観的なものなのか切り分けられないということ。

問4

- ① 一人称小説でありながら語り手の判断できないことが他者の視線から書かれていたり、作中で視点人物が突然変わるというように、小説における視点と語りが不合理で都合主義的であること。
- ② 小説の叙述における視点と語りの統一を説く中で、視点と語りを重要人物の一人だけに絞り込むことを唱えた。それは一人称小説の語りや私小説の語法の発見であり理論付けとなった点で画期的である。

長文出典

勝又宏『私小説千年史』（勉誠出版） 2025/1/30

【三】（20点）

出題意図

日本の古典文学を学び、理解する上で必要な、語彙力、文章力を判定するため、記述による内容説明・現代語訳を課した。

正答および正答例

問1 一部分うまく表現できていると見えるものはあるが、昔の歌のように言外にしみじみと趣深く、余情を感じるものはない。

問2 そのころの歌には、貫之の詠んだ「糸による物ならなくに」と同じような風姿や言葉のものが多いののに、どうして貫之の歌に限って「歌くず」のように低い評価が与えられるのかわからないということ。

問3 「残る松さへ峰にさびしき」の歌について、歌合の席での衆議判の際に、悪くないとの院のご沙汰があり、後にも特別におほめくださったということ。

問4 昔の人の詠んだ歌詞や歌枕は、決して同じものではなく

長文出典

「徒然草」

新編日本古典文学全集（44）『方丈記 徒然草 正法眼蔵随聞記 歎異抄』（小学館）1995年

【四】（30点）

出題意図

国語国文学を学ぶ上で必要な、基礎的な文学史および国語学用語の知識を問うた。

正答例

- a. イザナミ：日本神話に登場する女神。夫のイザナミと共に、日本の国土や様々な神々を産み出す。

死後は黄泉の国の神となり、人間の死を司る。

- b. 防人歌：奈良時代、外国からの侵略を防ぐために北九州に集められた防人達が詠んだ和歌。万葉集に収められている。家に残した家族や故郷を思う歌が多い。
- c. 唐風謳歌時代：平安時代初期の嵯峨・淳和天皇を中心とした、中国由来の漢詩文を重要視する文化のこと。日本古来の和歌が文化の中心から衰退したことから、国風暗黒時代とも呼ばれている。
- d. 更級日記：平安時代中期に、菅原孝標女によって書かれた日記。源氏物語に憧れる夢見がちな少女時代から、厳しい現実世界の中で仏教への信仰を深めていく晩年までを描く。
- e. 山家集：平安時代後期の歌人西行の私家集の一つ。平安時代後期から鎌倉時代前期にかけての代表的な六つの私家集である六家集の一つ。
- f. 太平記：鎌倉末期から南北朝期にかけての動乱を描く、室町時代成立の軍記物語。能・狂言・浄瑠璃・歌舞伎・講談など様々な芸能にも影響を与えた。
- g. 野ざらし紀行：「野ざらしを心に風のしむ身かな」に始まる、芭蕉の俳諧紀行。
- h. 曲亭馬琴：南総里見八犬伝や椿説弓張月などを書いた、後期読本の代表的作者。
- i. 我楽多文庫：尾崎紅葉、山田美妙ら硯友社同人が1885年5月に創刊した。和歌、漢詩文から小説、新体詩、狂歌、俳文まで様々な作品を掲載した。
- j. 細雪：谷崎潤一郎の長編小説。太平洋戦争直前の関西を舞台として、大阪の旧家の四姉妹を中心に日常生活や年中行事が絵巻物風に展開される。
- k. 学習ストラテジー：学習者が言語を効率よく学ぶために行うさまざまな行動や方法のこと。学習方略。代表的な分類に、オックスフォードの直接ストラテジー、間接ストラテジーがある。
- l. 特殊拍：撥音「ん（ン）」、促音「っ（ツ）」、長音「ー（または直前と同じ母音表記）」のこと。現代共通語では、日本語の音韻的対立は、拍が単位となり特定の音声に対応していることが通常であるが、特殊拍は前後の音環境によって音声が決定する。